

第1回研究設備センター先端研究設備部門会議議事録

日時：平成27年6月12日 16:30～17:15

場所：東8号館4F会議室

出席者：青山教授、内田准教授、守屋助教、牧助教、桑原准教授、加藤研究支援員、野崎教授

審議事項

1. 予約システム利用の徹底および利用状況の閲覧
(ア) マスタープランでの設備更新に影響を与えるので、学生には使用の際必ず、予約システムを利用し、使用記録を付けるよう徹底させる。
(イ) バージョンが変わったものの、利用方法は旧バージョンの利用方法と同じで構わない。
2. 装置の更新および設備マスタープランについて
来年度の概算に、今年度文科省に認められなかった先端研究設備部門から要求した先端ナノマシン材料システムが順位付け一番として含まれることが青山教授より報告された。また、国立大学法人施設整備費補助金への申請（ナノマシン関係とモノづくり関係を合わせて3億円）を急遽提出した。採否結果は8月頃の予定。また、先端研究設備部門から順位付け2番で要求したFE-SEMが、学内にSEMが多くあるので、導入する予定は平成30年度となった。
3. 今年度の運営について
先端研究設備部門長を青山教授、副部門長を内田准教授、補佐を野崎教授が担当する。部門長が不在の際に研究設備センター運営委員会が開催された場合は、内田副部門長が出席する。野崎補佐は、昨年度までの事務関係、予算申請の資料の作成等を行う。室長は、材料・デバイス室、機械・ロボット室、光・バイオ室、それぞれ野崎教授、青山教授、牧助教が担当する。その他部門委員として、守屋助教、桑原准教授、加藤研究支援員から構成される。事務補佐は、荒木さんが担当する。
4. 今年度の予算（設備の維持・運営）及び会計
(ア) 運営費配分額
先端研究設備部門の運営費配分額が昨年度と比較して6%減少した。但し、今年度分には昨年度の学長裁量費分が含まれているので、実質はもっと大幅に減少している。減額された分を設備維持費に補てんしてもらおうようになるので、今後設備を更新し、導入することが必要である。

(イ) 先端研究設備部門運営費

運営費 WN01 の予算の管理は青山教授と野崎教授の 2 人にしている。設備の修理で予算が足りないときは、WN01 を充当する。

(ウ) 決算および予算

今年度の予算配分は、別紙 1-1 に基づいて審議され、提案を認めた。装置につく維持費については、別紙 1-1b のように財務より連絡があり、従来通りその装置を管理している室に配算する。ナノ微細加工と 3D マイクロ加工機について維持費については、昨年度のように購入費の割合で材料・デバイス室と機械・ロボット室に配分する。別紙 1-1 に示されるように、先端研究設備部門に配分された運営費が 6%昨年度の額より減額されたため、各室への配分および運営費をそれぞれ 6%減額した。光熱費については、運営費から支払う。節電が大学より要請された場合はできるだけ従う。使用についての課金については、当面使用者に課さないが、大学からの運営費で施設維持ができなくなった場合将来検討する。基盤研究設備部門と異なるのは、利用者が複数の設備を利用しているため課金を設備ごとに行うことが難しい点である。昨年度の各室、各装置の会計報告は、別紙 1-1c～e に示され、承認された。材料・デバイス室は低温部門から借用している分については返却をし終わった。

5. 広報

(ア) 施設利用説明会（基盤研究設備部門と合同？）いつ、どのように行うか？

先端研究設備部門の材料・デバイス室では、常時登録施設利用者には、説明会を毎年年度初めに行っている。今年度も、先端研究設備利用希望者を幅広く募るため学内にメールを出し、行った。また、各装置の講習会で必要と思われる場合は、講習会の案内を全学に研究設備センター長の名前で研究推進課に依頼してメールで送る。先端研究設備部門全体の説明会を行うか検討したが、現時点では各室で行ってもらうことにした。材料・デバイス室の説明会は、前学期できるだけ早い時期に行っているが、毎学期初めに行うことも検討したが、当面は年度初めにのみ行うこととした。

(イ) ポスター（研究設備、研究）の作成

東 8 号館の研究設備、研究紹介のパネルはすでに返信があった分については更新を行った。先端研究設備部門の企業用、海外インターンシップ用（英語版含む）パンフレットの作成は URA の特任教員と相談のうえ、作成する。

(ウ) ホームページの作成

先端研究設備部門の趣旨がよくわかり、企業の利用、海外インターンシップ受け入れを活性化するためにホームページのコンテンツを更新する。

(エ) 研究成果報告書（基盤研究設備部門、低温部門と一緒）

昨年度同様、web 掲載のみとし、その原稿を 9 月末をめどに集めることを確認した。

(オ) 産学官連携 DAY での施設公開

昨年度同様、材料・デバイス室 2 名、機械・ロボット室 1 名、光・バイオ室 1 名の TA と研究支援員により公開し、クリーンルームの見学も実施した。今年度は 10 名程度で昨年度の半分以下であった。今回は、研究設備センター全体のプレゼンも企画し、青山教授が先端研究設備部門をスライドを使って説明したが、部内者ばかりで 10 名程度の聴衆者だった。プレゼンを行った C 棟から遠くてわかりづらく、初めから見学を決めている人しか来なかった。来年度はより多くの見学者が来るように産学連携センターと相談していきたい。

(カ) 利用者の拡大、課金

引き続き、内部、外部利用者を増加させる努力を行う。光・バイオ室では、新たに S の三瓶先生が設備を利用している。材料・デバイス室では、新たにサンドウー教授、他、S 科で何人か利用が見込まれている。現在、外部への後方が十分ではなく、外部へのアピールとして、パンフレット、Web ページを充実させ、URA と連携をとる。また、海外インターンシップ受け入れセンターとなるように準備を行う。海外からの訪問者があった場合は、積極的にプレゼン、施設見学を担当する。

6. グループ間の連携をどのようにしていくのか？研究基盤部門との差別化？

各室の研究設備、その利用目的が異なっており、連携が難しいが、個々に利用が拡大するよう努力するとともに、融合した分野、たとえば医工の分野での研究プロジェクトの立ち上げ、海外インターンシップの拠点となるよう今後も部門内での話し合いを継続する。

7. カードキーの再発行

カードキーの再発行はまとめて荒木さんが管財に依頼する。カードキーの再発行の手順については、後日加藤研究支援員がメールで部門員に知らせる。